

予算特別委員会審査から②

新型コロナウイルス感染症の拡大は、神戸を取り巻く状況を一変させました。観光や生活様式も含め「コロナ前には戻れない」というのが共通の認識になっています。神戸市は「港都神戸グランドデザイン」や神戸港将来構造に掲げられているウォーターフロント地区の再整備を48億円もかけてすすめ、さらに国際コンテナ戦略港湾や神戸空港連絡橋4車線化にも多額の予算が計上されています。大かわら議員は「この計画はコロナ前のインバウンド頼みのもの。状況が変化した今、他都市と同じような開発ではなく、情緒豊かな神戸らしい街並みを生かす工夫が必要だ」と指摘し、コロナ禍で今必要ない投資はやめるべきと質しました。

3月4日

駅前だけでなく、
ニュータウン全体に対策を
都市局審査で山本議員



質問する山本じゅんじ議員

ニュータウン地域では、高齢化や空き家の増加、住宅の老朽化、交通問題等々、多くの課題を抱えています。神戸

質疑項目

1. 国際コンテナ戦略港湾について
2. ウォーターフロント再開発について
3. 神戸空港連絡橋4車線化について
4. 兵庫運河の活性化について

答弁ダイジェスト

辻局長：ウォーターフロントは三宮とともに再整備することが神戸経済に寄与していくと考えている。

大かわら議員：コロナの収束が見えない中、民間共同の株式会社までつくり、前のめりにすすめるべきではない。

辻局長：民間の投資を誘発し、民間事業者に整備していただくことを前提にしている。

大かわら議員：市が今ある神戸らしい美しい景観や街並みなどを担保していくことが必要だ。他都市を見ても民間の提案で高級ホテルや複合商業施設など、ほぼ同じ内容の再開発がされている。コロ

3月3日

コロナ前と何ら変わらない
インバウンド頼みの
再開発やめよ
港湾局審査で大かわら議員



質問する大かわら鈴子議員

ナ禍で多額の予算を投資し、どこにでもありそうなまちづくりを最優先ですめるべきではない。

答弁ダイジェスト

山本議員：名谷エリアにある8校のうち、3校はほぼ単学級だ。このままでは存続すら厳しくなる。政策的な対応が必要だ。民間では対応できない。

小島新都市事業部長：減少傾向なのは把握している。マンションを整備した地域は上昇している。名谷活性化プランを実現することで若者に選ばれる街にする。

山本議員：名谷駅周辺のマンションは西落合小学校区だ。そこは増えるが、一方で隣接する竜が台小学校や神の谷小学校には児童が増えない。駅から離れた地域への対策も重要だ。地域の人から多くの課題を聞いている。神戸市が開発して計画的につくってきたまちだ。市の対策は重要だ。

1. 名谷エリアのニュータウン対策について
2. ニュータウンの将来像について
3. 三宮再整備の見直しについて
4. 新長田駅南再開発事業会計について

質疑項目
—— 森本真議員

市は名谷活性化プランをつくり、名谷駅周辺にマンション誘致などをすすめるリノベーション計画をすすめるようとしています。しかしその対策は、駅周辺だけで、駅から離れた地域にはほとんど有効な対策がとられていません。山本議員は「駅周辺の整備だけでは住民構成にアンバランスが生じる。駅から離れた地域も含めた名谷エリアの将来ビジョンと具体的な対策が必要だ」と質しました。

ぜひご視聴ください

西ただす議員が一般質問

視聴はこちらから →
時間が前後する可能性
がありますので、余裕
をもってご覧下さい。



日時 3月29日(月)13時30分頃から 場所 市議会本会議場

3月4日

コロナ禍で大変ないま、福祉の切り捨てはゆるされない！ 福祉局審査で朝倉議員



質問する朝倉えつ子議員

1. 老人クラブへの援助金の充実に
ついて
2. あんしんすこやかルームの存続
について
3. 介護保険料値上げについて
4. 国保料滞納処分業務について
5. 生活保護扶養照会について
—— 味口としゆき議員

質
疑
項
目

神戸市は事務事業の見直しで、あんしんすこやかルームの廃止や老人クラブへの補助総額を減らし、国保の収滞納業務を行財政局税務部に集約します。福祉局は「滞納処分だけを通し、納付相談はこれまで通り区役所で行う予定」といいますが、生活が困窮し国保が高すぎて滞納している世帯には丁寧によりそう対応が必要です。朝倉議員は「今まで通りすべて福祉局でやるべき。相談業務はひとりひとり対応が違いストレスも多く片手間

に出来ない仕事だとの職員の声もある。行財政局で丁寧な対応ができるのか」と質しました。

答弁ダイジェスト

上田副局長：収税課集約することで、一切考慮がなくなることはない。

朝倉議員：滞納している世帯にはこれまでどおり福祉局が丁寧な対応してもらえるのか。

上田副局長：かわりない。

朝倉議員：窓口に行きづらい方もいる。アウトリーチも含めてしっかり対応が必要だ。

3月5日

子どもたちの声に応え 温かい給食の早期実施を 教育委員会審査で林議員



質問する林まさひと議員

1. 少人数学級について
2. 中学校給食について
3. 学校図書館活用と学校司書につ
いて
4. 学校施設管理補助スタッフにつ
いて
5. ギガスクール構想について

質
疑
項
目

本として調査し、生徒の満足度の高いすべてのおかずを温かく提供できる方式を前提とした検討をすすめる。

林議員：民間活力という言葉が最初に出てくるのが問題だ。市民団体の調査では22校で親子方式が可能とされている。民間ではなく学校調理方式を基本として調査すべきだ。

長谷川事務局長：1つの方式にこだわらず学校施設の状況や地域の特性を踏ま

え、複数の方式を組み合わせながらスピード感をもってすすめたい。

林議員：前向きに実施を考えているのなら、できるところから早期に実現していただきたい。

した。また、バス路線を構築する際は、データは参考程度にし、利用者や地元住民の声を直接聞くよう要望しました。

答弁ダイジェスト

今井議員：減便は臨時的なもので元にもどすことは考えているのか。

大岩根自動車部長：コロナ以前の状況でたくさんバスに乗っていただけなら適宜増便考えていく。

今井議員：今日JRに乗ってここに来たが乗客は元に戻ってきて密な状態だった。コロナが収まったら乗客は必然的に戻ってくる。「バスは安心です」と発信されるならいいが、「便数を減らす」というマイナスの宣伝をしたら乗客は不安になり安心して戻ってこれない。ぜひ、乗客の立場に立って考えてもらいたい。

質
疑
項
目

1. 市バス5路線の便数削減撤回に
ついて
2. 「データに基づく持続可能な路線
バス網の構築に向けた有識者会
議」について
3. 「神戸市営交通経営計画2025」
について
4. 市バス運転士の人件費削減につ
いて
5. 交通振興バス運転士の労働条件
の改善について

ス路線を減便することを提起しています。乗客が密にならない昼間に1時間あたり1便程度減便とのことですが、今後の見通しがまだつかない中での減便はあまりにも早急です。今井議員は「感染拡大を防ぐためにも反対に便数を増やすべきだ。今後は乗客が戻ることも考えられる。便数削減は撤回すべき」と追及しま

3月5日

コロナ禍でのバス路線の減便は撤回を 交通局審査で今井議員



質問する今井まさこ議員

神戸市は、コロナ禍でのバス乗客減を理由に、2、7、16、64、92系統の市バ

中学校給食の実現は、これまで市民運動とともにわが会派も繰り返し求めてきました。しかし、おかずの冷たい給食で喫食率はすすんでいません。このたび食缶方式と親子方式をモデル実施した学校のアンケートでは、親子方式で提供した9割以上の生徒たちが「満足」と回答し、温かい給食を望んでいる結果となりました。林議員は「親子方式を実施した中学校を見学し、やはり温かい給食が生徒にとって必要だと実感した。アンケートの声に応え、できるところから早急に温かい給食を提供すべきだ」と求めました。

答弁ダイジェスト

長谷川事務局長：民間活力の活用を基